



# ふらり らいふらりい

～図書室にはこんな本があります～

## No. 184

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。  
(書名の後の( )の数字は請求記号です。)

問) 衣料切符について知りたい。

答) 「衣料 切符」をキーワードとして検索をしてみます。

図書 → ことばから探す → 「衣料 切符」と入力 → 検索 ⇒ 66件

『衣料切符制の話』 E589.2/Ko73 閉架

『切符制度の理論と実際』 675/F72 閉架

『平和を伝える 戦中暮らしの実物資料〔復刻版〕』 210.75/To79/1 閉架

閲覧室にある本の中から探したい場合は、[ひとつ前に戻る](#) ボタンを押し、検索対象で開架にチェックを入れてください。

検索結果 ⇒ 12件

『あの戦争 太平洋戦争全記録 上』 210.75/Sa65/1 開架

『教科書に書かれなかった戦争 part 11』 210.75/Ky4/11 開架

『暮らしの中の太平洋戦争』 210.75/Y34 開架

『昭和 第6巻』 210.7/Ko19/6 開架

『「戦前・戦中」用語ものしり物語』 210.75/Ki68 開架

『戦争とくらしの事典』 210.75/Se73 開架児童書

◇ 「衣料 配給」というキーワードでも関連資料が検索できます。

◇ 5階の映像・音響室では、衣料切符に関する証言映像を視聴することができます。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。  
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。  
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

## —戦後 70 年— ある文学青年の日記



今年は「戦後70年」という節目の年でもあり、戦争や終戦に関連した映画の公開やテレビドラマの放送、書籍の出版などが相次いでいます。特に、兵士や従軍看護婦として動員された当時の若者たちにスポットをあてた作品は、同年代である現代の若者たちにも注目されています。

そのような当時の若者の1人に、「竹内浩三」という青年がいます。今夏放送されたテレビ番組で、「骨のうたう」などの彼の詩を若手声優が朗読するシーンを覚えている方もおられるでしょう。

竹内浩三(たけうち こうぞう)

大正 10 年(1921)、三重県宇治山田市(現・伊勢市)生まれ。昭和 15 年(1940)に日本大学専門部映画科入学。在学中の同 17 年(1942)、同人誌『伊勢文学』を創刊するなどの活動を行うが、繰り上げ卒業のため、半年早く日本大学を卒業。帰郷ののち入営。

翌 18 年(1943)9 月に茨城県西筑波飛行場の滑空飛行戦隊に転属。昭和 20 年(1945)4 月 9 日、フィリピンでの戦闘にて戦死。享年 23 歳。

転属後、1年3ヶ月にわたる西筑波での軍事訓練の間にひっそりと竹内が記し続けていた『筑波日記』には、戦時下を生きる文学青年の心情や葛藤などが素直につづられています。

当館図書室でも、『筑波日記』をはじめとする竹内の作品を収めた図書を読むことができます。

竹内 浩三 『愚の旗—戦死やあわれ』(日本図書センター 1992 年) 閉架 918/Ta67

桑島 玄二 『純白の花負いて』(理論社 1978 年) 閉架 911/Ku95

ゆりはじめ 『戦争の青春—書き残された昭和精神史』(日本図書センター 1988 年)

閉架 910/Y99

稲泉 連 『ぼくもいさに征くだけけれど』(中央公論新社 2004 年) 閉架 911/152

12月12日公開予定の松竹映画『母と暮せば』(監督:山田洋次)は、終戦から3年後の長崎を舞台に、原爆で亡くなった息子がその母親のもとに現れるところから始まりますが、竹内浩三は、二宮和也さん演じる「息子」のモデルの1人ともいわれています。彼の戦死からちょうど70年目にあたる今年、あらためて、戦時下を生きた文学青年の作品にふれてみるのはいかがでしょうか。

### —図書室から—

ハンガールにて「東京駅の歴史」「内閣制度 130 年」に関する資料を紹介しています。

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 184

2015 年 11 月 20 日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1